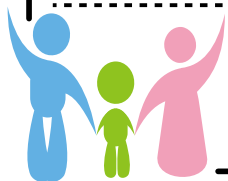


VI 個別の指導計画の作成



Aちゃんの個別の指導計画（記入例）

(作成日) 平成 年 月 日		(担当者氏名) ○○○○○○	
フリガナ (名前)	A	男・ ②女	(年齢) 4歳5か月 (生年月日) ○○年○○月○○日
既往歴	なし (内服なし) <i>分かる範囲で記載し、分かればその都度追加します。</i>	健診状況	・3か月健診：首が座っていない（要観察） ・1歳6か月健診：ことばの遅れを指摘され、その後ことばの教室に2カ月通っていた。
全般的な様子	<p>登園・降園、生活（食事・排泄・更衣・その他）、遊び・運動、ことば、集団の中での様子・制作、行事（発表会・園外保育等）など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ自分のことは自分でできている。普段、園での生活（毎日同じ繰り返し慣れていること）はできるが、突発的なできごとには、戸惑うことがある。 ・新しいことを覚えるまでは時間がかかるが、一度覚えたことや慣れたことはきちんとできている。 ・一人遊びが多かったが、気の合う友達ができ、一緒に遊んでいるときは、笑顔や会話をする姿が多くなってきている。困ったことを感じた時は、「先生どうするの？」など自分から聞こうとするようになってきている。 		
気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・指示に従えないことが多い。クラス全体に話しかけている時も、個別で声をかけた時も、聞いているのかいないのかよく分からない。（視線が合いにくい） ・必要のないものをかばんに入れようとして（入らなくても無理に押し込もうとすることも）声をかけるとやめる。どうしたのか尋ねても首をかしげ、他の子の物を持ってきてしまうことが多い。 		
子どもの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・得意なこと ・好きなこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を見ること ・絵をかくこと（イメージした絵を描く） ・気の合う友達と遊ぶこと（ごっこ遊び、虫探しなど） ・大人（先生）と話をすること、手伝いをすること 	
保護者からの情報	<ul style="list-style-type: none"> ・望むこと ・家庭での様子や対応など 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと自分ひとりで、何でもできるようになって欲しい。 ・分かっている時とそうでない時があるので、わざとできないふりしているように思う。つつい手を出してしまう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・改善すべきこと ・できるようになって欲しいこと 		<ul style="list-style-type: none"> ・目を合わせて話が聞け、集団の中で指示に従うことができる。 ・自分のものが分かり、自分のものを持ってくることができる。 ・分からないことや困ったことを、先生など周りの人に伝えることができる。 	

できれば、長所や伸ばしたい行動を含むことが望ましい



目 標（期待する状態）

- ◎ 本児が好きな絵本について、先生の質問に答えたり自分から面白かったことを話したりする。
- × 社会性を伸ばす。

実現可能な直近の目標、あるいは手近に達成できそうな具体的な目標を設定します。

伸ばしたい行動や特徴に対するかかわり方について

- ・ して欲しい行動は口で言うだけでなく、まず一緒にしてみる。（手本を見せる）
- ・ Aちゃんの正面から視線を同じ高さにして話しをする。
- ・ 全体に話をする前に、Aちゃんには先に個別に「Aちゃん、今から先生が〇〇のお話しをするから聞いてね。」と予告しておく。
- ・ してほしい行動を細分化（「困ったとき」には、①先生を探す②先生を呼ぶ③先生に困っていることを伝える④うまく伝わらないときは、再度伝え直すなど）して、できた行動は、その場ですぐにほめる。通してできるようになれば、もっとほめる。

環境設定の工夫について

支援のポイントと対応を参考にしながら、その子なりの適切なかかわり方をまとめます。

- ・ 先生の近くの席にする。
- ・ 常に音がする時計は注目がそれてしまうため、音が出ない時計と交換する。
- ・ これからする行動を視覚的に実物、絵・写真などで提示して話をする。
- ・ 絵本を利用する。（本児の興味のある教材の活用）

保護者との連携について

- ・ 園でやってみて成功したことを話し、家でもほめてもらう。
- ・ 家でできること・できないこと等の情報を共有する。また、できているところまでは見守ることが大切なことを伝える。
- ・ 目が合ってから指示を出すことを家庭でも母・父・祖父母にも実践してもらう。

関係機関との連携について

支援のポイントと対応等も参考に

- ・ 園への巡回相談等を利用して、保護者と一緒に児のかかわりについてアドバイスをもらう。
- ・ 地域の保健師に子どもを対象とした相談窓口や療育等、社会資源についての情報を得る。

*個別の指導計画の見直し 平成26年2月15日（評価・課題など）

目標設定後、1～3カ月を目安に見直しをします。

- ・ 個別に話をする時は、ほぼ毎回視線が合うようになり、話もかみ合うようになってきた。
- ・ 他に気になることややりたいことがある時は聞いていないこともあるので、子どもが集中しやすい時間やタイミング、場所を観察して、他の先生とも情報を共有する。
- ・ 全体に話をする時は、引き続き、集団への声かけと同時に個別への声かけも必要である。

VI

個別の指導計画の作成

